

錦洛物産園會坤



伊藤 31 4265 2

大日本物産圖會

石灰 人民の益と至大  
なる物なり先其の法は  
古の人の合せし石垣敷水  
の泥水の上を遺す諸器物  
の製造に如く其れ用ひる  
所也 山中の青石夜色  
石青白石等の中近美濃よ  
り出た物物上等と云ふ三三  
程掘て穴を以て破 山上よ  
り磨落し 碎りさすの  
下品と云

美濃國石灰山之圖



大日本物産圖會

石灰 焼く  
内種ありて樽 高さ一丈  
間經三尺中直の丸浅下

大日本物産圖會

美濃石灰焼之圖

石灰焼の年久櫓の  
内種ありて櫓高き丈  
間経三尺中直の穴下  
の穴細くはし底小穴  
石と炭とを夾之鐵釘  
丸かき下より焼く  
氣は登り下りの穴より  
灰と出せり斯くは  
石と炭とを夾之鉄釘  
丸かき下より焼く  
氣は登り下りの穴より  
灰と出せり斯くは



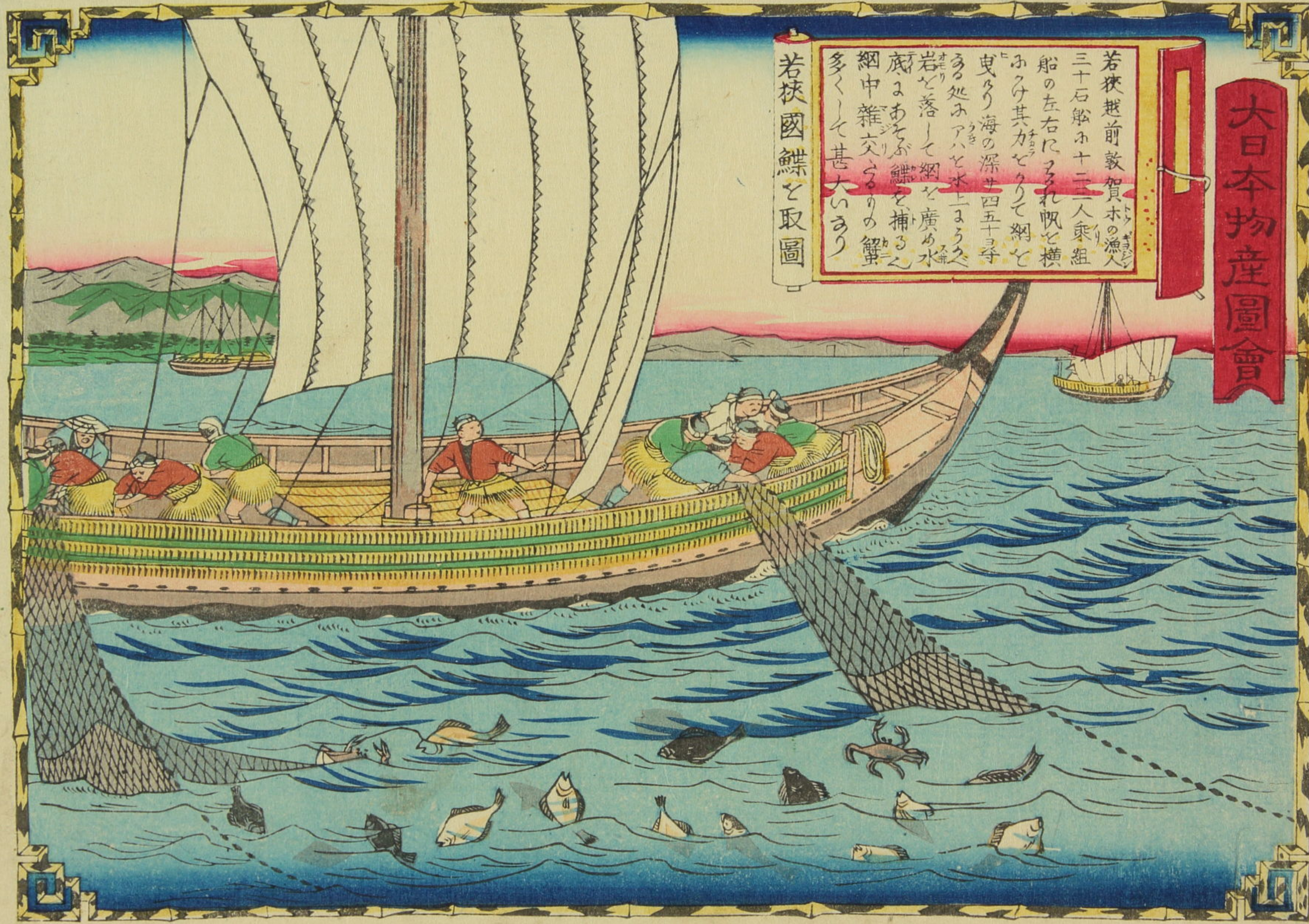
重正大新町四丁目  
安藤徳六郎



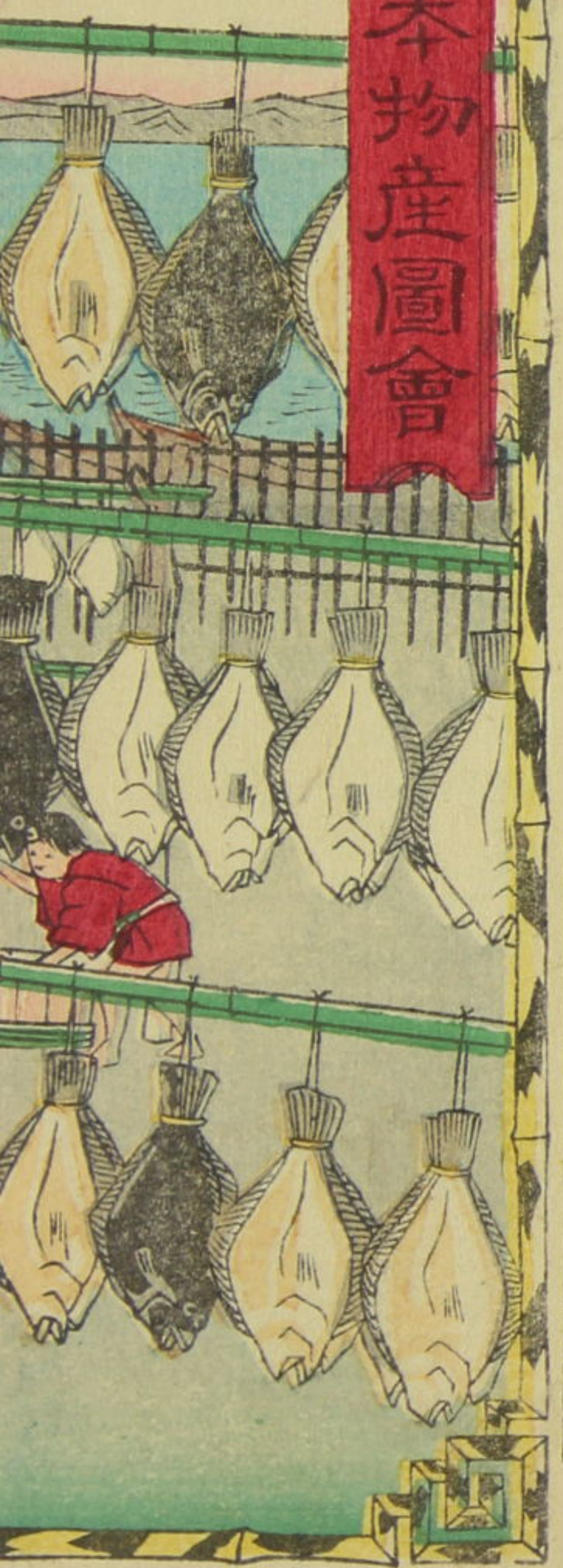
大日本物産圖會

若狹越前敦賀ホの漁人  
 三十石船ハ十二三人乗組  
 船の左右にヨレ帆を横  
 ふみ其カセウリて網を  
 曳り海の深サ四五寸尋  
 るる処ハアハと水上ヨウ  
 岩と落して網を廣め水  
 底をあそぶ鯉を捕る  
 網中雜交するの蟹  
 多くて甚大のあり

若狹國鯉と取圖



大日本物産圖會



出所 日本拾遺三集卷之三 魚子 三

大日本物産圖會

取る鱈と一夜塩水ひじ  
 半熟したる処と砂上  
 あれ蒸とあちひ温濕の  
 気みて蒸のち一夜づ  
 尾と糸みつるだもこ  
 乾し即日西京よ出  
 こちあひひくし又小鯛  
 と延縄よく釣り同く塩む  
 りて出す塩蒸の品多と  
 虫も此西種ハ無類の美味

同蒸鱈製造之圖



出所 日本物産圖會 大日本物産圖會



大日本物産圖會



出所 日本物産圖會 卷之九 竹器



大日本物産圖會

加賀國菅笠造ル圖
菅笠石川郡金沢と葦
と以て造り諸國へ出され
頭ふ被りて日光と遮り雨雪
を防ぎ民用するやと西洋
今右ふ出る葦の水田
み植る草めて草み似
て色青く長さ四五尺を
るるあり之を刈て白
くさし竹骨は燈付て其
形ち皿のさく或は鈴の如
く造るん多し女の職業とに

玉 万

大日本物産圖會

大日本物産圖會

加州熊皮之膽ヲ取ル圖  
 熊の多く大樹洞中に住  
 りのちり狩師杖の付くる  
 木ヲ持て窺穴を突探れむ  
 熊木を引入んて両多の枝  
 へ引く獵師斧を以て熊の  
 手と断切し或は鎗を以て  
 皮を解刺し膽を中より  
 取るなり當國と上品とす  
 黒様豆粉様塊均様の三  
 種あり就中琥珀様と上  
 等と云



加州熊皮之膽ヲ取ル圖

加州熊皮之膽ヲ取ル圖



加州熊皮之膽ヲ取ル圖

大日本物産圖會

能登素麵製造圖

幸麩の備後伊豫美作河波  
 讃岐大和能登伊勢の各州  
 ありて産出す五色平長大  
 白粉の諸名あり初  
 其採あけたる小麦  
 冬みりて目方四五百  
 目と碓を引結ぶらひ  
 二ノ目の白粉と別  
 水括るをわけてあるを  
 蒸練るを厚延し濁の  
 切過て更の細はて掛る  
 乾上適宜截て諸国に出す



大日本物産圖會

鯨ハ諸國の海濱に鯨と  
 と虫の類をとりてその物を  
 名品といふ春宴秋の夜とも



江戸の日本橋二丁目には  
 ノリ屋が並ぶ

能登素麵



大日本物産圖會

鮪ハ諸國の海濱に鱈と  
 とまらぬをうとる物也  
 名品といふ春夏秋の夜々々  
 曇り潮水立のあり海上  
 千艘とて鮪日和と称し  
 漁舟數百艘打並ひ舟舟  
 ひ竿と照し方火天と焦り  
 如し釣糸八十尋計りし  
 竊獲さしと能て手線と物

同國鮪釣之圖



魚大鏡町四番地 安藤徳兵衛



大日本物産圖會

越後國雪平布晒圖  
 縮の越後國柏寄小千谷千手  
 塩沢十日町よりしるし物皆  
 綿或は苧ふたりよて島堀辺  
 の白縮と専ら下谷辺の  
 羊麻を多く養ふ羊麻の  
 麻は似てその葉桐のごと  
 其刈らて皮を剥石灰と稀  
 灰のあくめてさし煎之  
 細く破き紡ぎて布に  
 織り晒屋小千谷さしや  
 又灰汁うぐさし降積雪小  
 致とさし雪のしるしとさし  
 ちるし白縮のゆきのしるし



大日本物産圖會



出版人 日本報通工部省 大倉五三郎

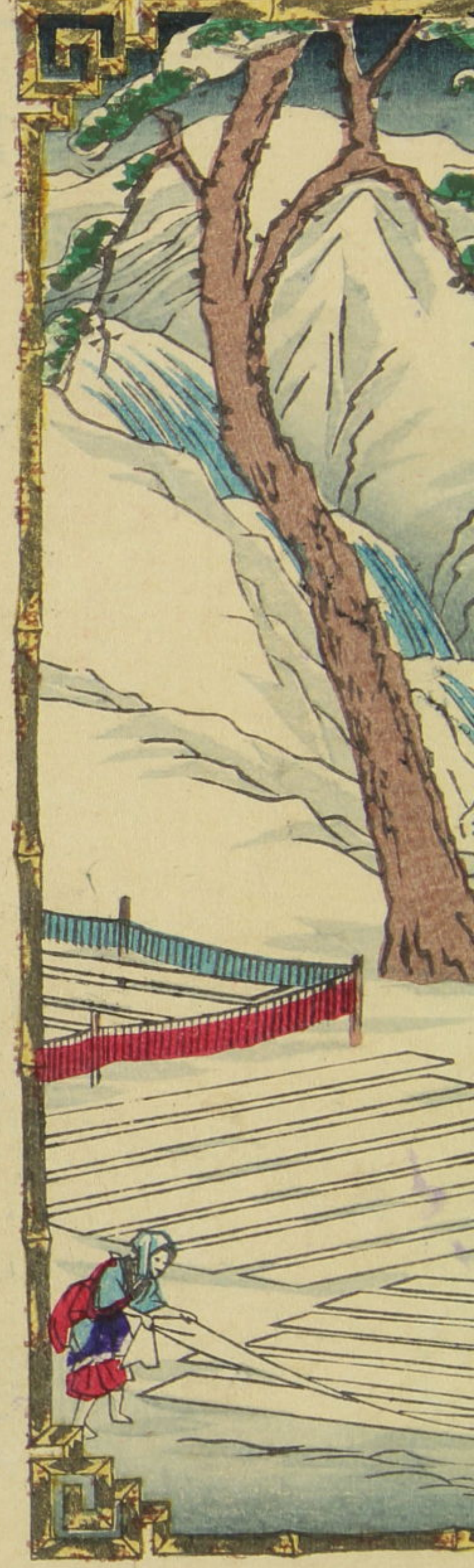
大日本物産圖會

越後國鮭洲走之捕圖  
 當國の鮭は初秋上り北海と  
 出て千曲川阿加川の流る  
 凡五十四里川よあるゆ五ヶ月  
 清き流水の所小子と産つけ  
 后海小飯の鮭水よあるゆ  
 十四日よと魚と化春小至  
 て海入生長くと川を登ると前  
 のに鮭網おと知り遊んとて  
 河原は荒上り走ると四五間矢の  
 如くあくと水よ荒入る然れど  
 先なる原りのみあれて倒ると  
 あれは後の鮭皆倒て走らざる魚  
 と云へ漁夫これとるゆなり



大日本物産圖會

出處人日本探通工部方権地大倉石三



大日本物産圖會

自皇國金と發見せし人皇四十六代孝德天皇の御宇始め陸奥國より獻納すと云蓋し當國の諸郡より出せし金と就中雜太郡相川西見川金山と云掘出せし最も其出額年々五十日余なり字に盛ると海内第一也

佐渡國金山之圖



大日本物産圖會



大日本物産圖會

佐渡金堀之圖

金サキ砂サキ金石サキ其外サキ數種  
あり砂金ハ山谷主砂の中に  
生ウツむ又瓜子金ウツ鑿金ウツと  
つツの精煉ウツして熟金ウツと  
ちチの石金ハ岩石の間  
に混合カして方言カシ  
ラマセとゆふ人夫ア礦中  
の金脈ツをつツみて堀捕  
くクのるク

カケヤス  
腰ウツを打ウツ込む

天ウツはき

面ウツ大ウツ掘ウツ町ウツ四ウツ番ウツ地ウツ 佐ウツ渡ウツ金ウツ堀ウツ之ウツ圖



大日本物産圖會

郷に丹後國と謝の入海に  
 こるりのと上品と凡魚のつひ  
 ふ此より長きに及ん  
 出んとき時とくひ追  
 網とて捕らぬいりの  
 入口より数艘ふひ  
 舟とたさ魚とあひ  
 けれ尚魚のたさるるさ  
 重みあるとひ獲て  
 ひにけり

丹後國網追網之圖



大日本物産圖會

網磯近くあるとき教百人  
 あつまりて網を引あげ網  
 中より魚を打鑑或は



出船八日  
 丹後國  
 網追網  
 大日本物産圖會



仕船人日在瀬田三島力権場大倉子舟箱

大日本物産圖會

廻磯迎くるとき教百人  
 あつまりて細と引あげ細  
 中ふ羣る魚を打鑑或ら  
 むどろみで砂上へ投あ  
 腸どぬき大桶よりいせま  
 塩づけとちり又ちり  
 腹中にちり土中り  
 うろこをむしちりあせ  
 て水気と去りあせび  
 塩とちりちり薦ふ包て  
 諸邦へ出す

同 鮒磯場之圖



至五大瀬田三島地安永徳子舟

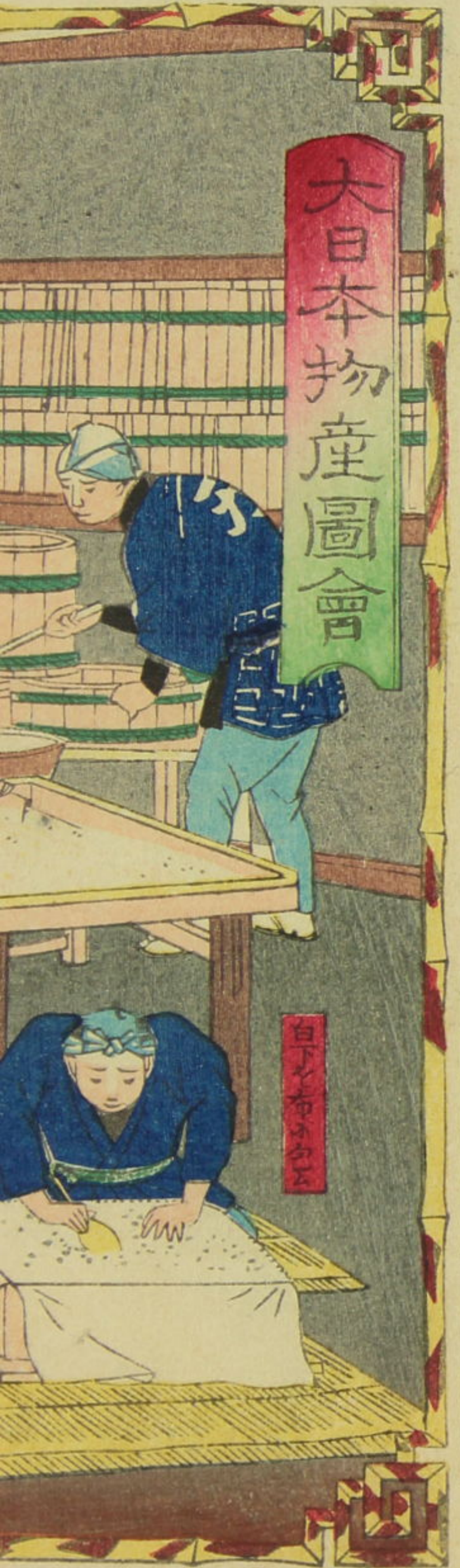
大日本物産圖會

夫甘蔗<sup>ワシヤ</sup>を培養する地は伊勢尾張駿河紀伊阿波土佐肥前諸波薩<sup>ハホ</sup>・龍中<sup>ノナカ</sup>の白薩<sup>シロサツ</sup>の黒糖<sup>クロカウ</sup>ハ國中第一といひ甘蔗の蜀黍<sup>シヨウモ</sup>に似るその長サ一丈余あり立冬<sup>タツフユ</sup>より春<sup>ハル</sup>日<sup>ヒ</sup>移<sup>シ</sup>種<sup>タネ</sup>蒔<sup>キ</sup>種<sup>タネ</sup>蒔<sup>キ</sup>とみせを春日<sup>ハルノヒ</sup>移<sup>シ</sup>種<sup>タネ</sup>蒔<sup>キ</sup>冬<sup>フユ</sup>至<sup>ル</sup>は折<sup>ヒ</sup>採<sup>ル</sup>リ牛<sup>ウシ</sup>は引<sup>キ</sup>て石<sup>イシ</sup>を少<sup>ウチ</sup>て榨<sup>シ</sup>甘蔗<sup>ワシヤ</sup>二百<sup>ニヒヤク</sup>年<sup>ニ</sup>目<sup>メ</sup>一日<sup>イツニツ</sup>搾<sup>シ</sup>て二人<sup>ニヒト</sup>の業<sup>ノノリ</sup>といひ

諸波國白糖製糖之圖



大日本物産圖會



白砂糖製糖之圖

出所 日本物産圖會





搾りたる汁は、灰と和  
く荒釜にて煎り、あ  
ととるごと、数回、  
白下とる。三盆、白下、百斤と  
九個の布を包み、船まで  
重石をうけ、荒密をまわす。  
一書、翌日、取出し、トキ板  
にて練り、又ゆき入て、搾り、  
と五回、はて、三盆糖を得、残り、  
荒密を、白糖三十斤、ゆり、  
残の密は、二番密とて、諸方へ出ス。

大日本物産圖會

諸國白糖製造圖

一、大余あり、立冬、乃、  
種蔗を、みせ、春、日、移、植、  
冬、至、は、折、採、り、牛、引、  
石、重、少、て、搾、り、甘、蔗、二、百、  
目、日、搾、り、と、二、人、の、業、と、  
ス。

出、入、日、本、物、産、三、冊、三、冊、長、大、尺、寸、五、寸、  
一、冊、目、録、一、冊、目、録、一、冊、目、録、一、冊、目、録、

大日本物産圖會

シホ  
 淡の當國赤穂<sup>アカホ</sup>の<sup>セイ</sup>物  
 たる<sup>シ</sup>と<sup>ホ</sup>肉<sup>ノ</sup>第一等<sup>ノ</sup>の品<sup>ニ</sup>は  
 晴天<sup>セイテン</sup>小潮<sup>コウシホ</sup>と汲<sup>ヒ</sup>て<sup>シ</sup>砂<sup>スナ</sup>上<sup>ノ</sup>ま<sup>シ</sup>時  
 砂<sup>スナ</sup>の<sup>カ</sup>乾<sup>カ</sup>くと<sup>ワ</sup>待<sup>マ</sup>て<sup>シ</sup>是<sup>レ</sup>と<sup>ア</sup>り  
 免<sup>メ</sup>水<sup>ノ</sup>に<sup>シ</sup>濃<sup>ク</sup>く<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>た<sup>ル</sup>る  
 去<sup>ク</sup>同<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>平<sup>ナ</sup>釜<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>煮<sup>ク</sup>  
 俵<sup>ノ</sup>の<sup>シ</sup>法<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>又<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>塩<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>  
 塩<sup>ノ</sup>等<sup>ノ</sup>の<sup>シ</sup>種<sup>ノ</sup>々<sup>ノ</sup>あり<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>色  
 潔<sup>ク</sup>白<sup>ク</sup>なる<sup>ト</sup>雪<sup>ノ</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>

播磨國赤穂塩漬之図



大日本物産圖會

ひのや酒作



大日本物産圖會

大日本物産圖會



播州姫路革店之圖

姫路革ハ飾テ郡姫路に  
 製ハ獸ノ皮トシテ標  
 色ニシテ色ハ深クあり  
 草木花果鳥虫等の  
 色ニシテ中着着入色  
 トルハ文庫硯管其外  
 種々の器物と彫り造  
 美麗ハ最堅強なり

大日本物産圖會

革細工  
 姫路革卸

出所 大日本物産圖會  
 大日本物産圖會  
 大日本物産圖會

出所 大日本物産圖會



播磨國赤穂塩濱之圖

赤穂ハ平釜ニシテ煮  
 徹メシテ又ヤレ塩ニシテ  
 塩等の種々ありて其色  
 潔白ニシテ雪ノ色トシ

大日本物産圖會



藝州嚴島明神ハ日本三景のち  
りく堂社の創建景色目を  
敬尊子社中大經堂ハ関白秀吉公  
の創建はて桁廿間梁十間五尺  
余椽幅八尺四方らんんを付す  
俗々千畳敷といふ前西海之望  
と尤も絶景なり堂中以商ふ  
楊枝の柳をまつり五色の色  
をとりてちまひを美うて  
島中の名産といふ又数々の  
猿鹿群遊し七よへ入ふれ  
人お乞ふ餅を食す

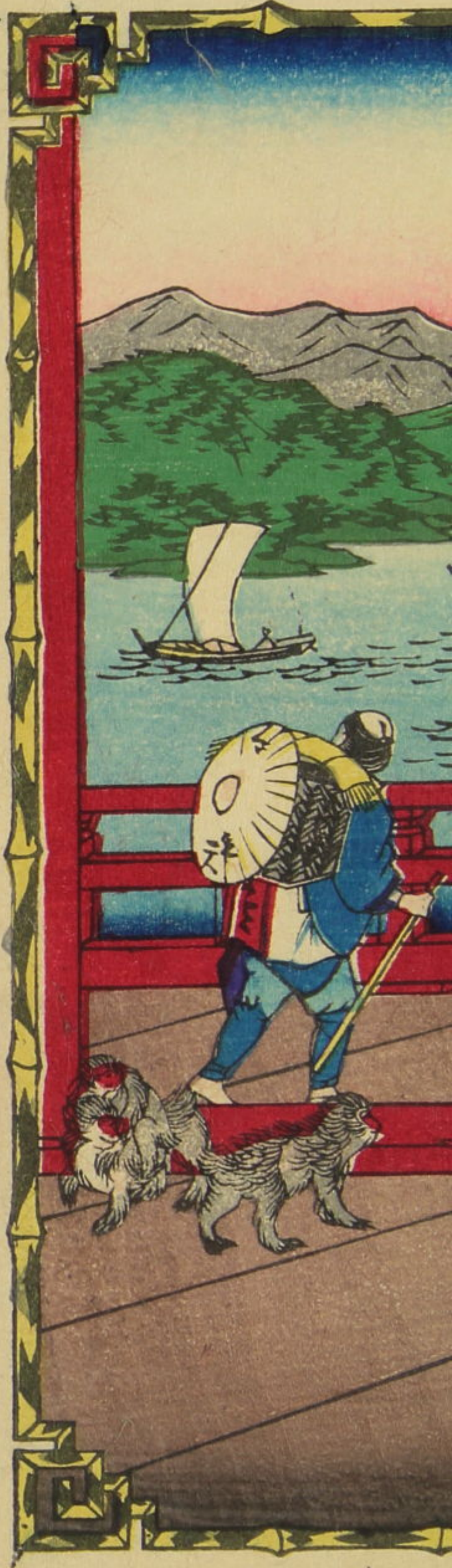
安藝國嚴島楊枝の圖

大日本物産圖會

大日本物産圖會

蛎ハ貝中の等はして人牙に  
りとも滋養の物なり海中  
自然に生ずるものはて大なる  
ものハ岩の如く集合して  
二三丈ホ及ぶ莖及ホ蓄養す  
るものハ小なりと虫もその味ハ  
美多し干潮のとき砂上ホ竹木  
にて垣をつらね潮のきるまで  
とろ別ふりけすのちの砂  
中ホ蓄養し三年目ハ  
て取出し食用よそ多し

同廣島牡蠣蓄養之圖



大日本物産圖會



出所 尾道 早良 坂 乃 有 井 之 井

大日本物産圖會



香草、桐樹の朽れ材より自然に生ずると云ふ世に給ふに於て、此材を人工にて製する者、則ち桐材擲置するの材を切り斧を以て傷めず、拾遺の三年、而全才の行商と除き、林中に列へ産架おく、町の春を以て香草を採生ず、是を収て機材と水に浸し、取出し、木槌を以て敲く、再列を河の三日と給て草生ず

周防國香草製之圖

山陽 尾道



の村を切り谷を以て傷を  
捨てり三年而全才の行腐  
を除き林中に列へ建架お  
けい春を以て香草を採  
生ず是を収て機材を水に  
浸し取出し木槌を打て  
く再列並河三日を經て草生

周防國香草製之圖

出所 日本雜通三早九草城大倉舟之

大日本物産圖會

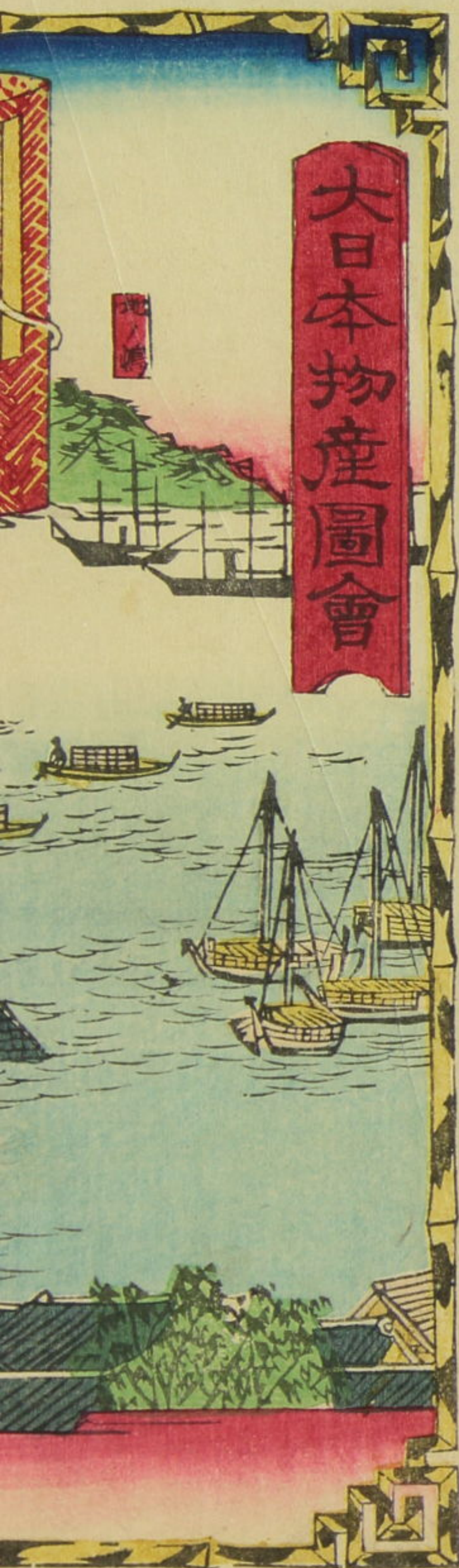
石耳ハ岩上の濕氣ある  
所ニ自然に生ずるもの  
にして皆山上の嶮所ニ生  
ず形木耳キノコに似て甚ざらひ  
さく松の葉の如く黒色は  
て莖は是を採るに梅と  
うひ繩ヒマまする或ハ香にの  
木の枝より釣下り其をさ  
と採の木つふ如くあり

同國岩蕈採之圖



画 大鑑新四卷地 守藤徳兵工

大日本物産圖會



大日本物産圖會

蜜柑の枝小刺はつて五月の頃小白花浅開き其匂ひ甚く香ぐり九月ふつと実青く冬ふつと生熟し紀伊の國の産を其氣味甘美なりと他此類なり実小柑中の冠なりといへり各郡夥しく産するに有田郡が第一等と云ふ此郡より輸出するに凡百五十万箱に達するといふ

紀伊國蜜柑畑之圖

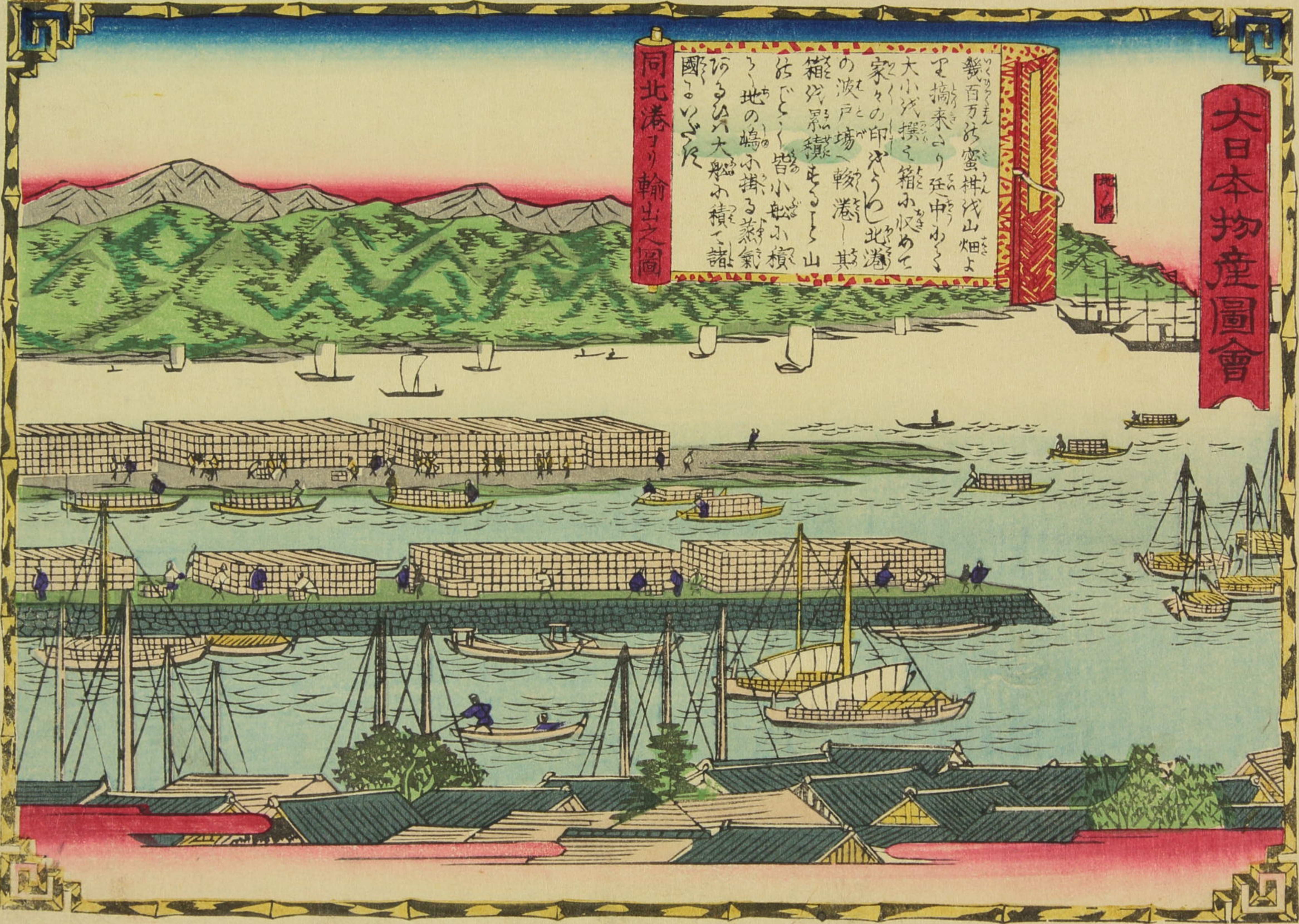




大日本物産圖會

幾百万は蜜柑山畑よ  
と摘来り延中ゆく  
大小浅撰之箱小収めて  
家々の印さる北港  
の波戸場 鞆港 其  
箱以 羅織 毛織 山  
は じり 皆 小 船 小 積  
この嶋小掛る蒸氣  
あるは大船小積 諸  
國より

同北港より輸出之圖



重 大船町 安藤徳兵衛



大日本物産圖會

鯛ハ海中 巖石多き処  
集り是をとり 小不便  
るゆゑ小舟リとのりて長  
三百三十三尋計りある繩  
糸よこらす板を付水中  
ひひハ木の葉の散乱する  
あやしくあるがあらる魚  
をそのれて中流よたふ  
入りの真中よあつち此繩  
を引よ舟七艘はて兼人舟入

淡路國鯛釣り之圖



大日本物産圖會



大日本物産圖會



繩の両端へ各舟二艘ずつ  
網船二艘ハ先ヨ進ミテ  
とあり又艘ハ繩の沉マサ  
る所真中ト採リ魔とあり  
号令ト下す然レテ魚の集  
まるを先ヨ進ミテ網船  
後ヨ廻リ網をとれハ初の二艘  
繩ト放ツ網舟の二艘港板とあり  
違テ網とあがる余の舟は網  
て網中の魚とあり小舟とあり

同 網之圖

重正大徳可也 安藤徳兵衛



大日本物産圖會

雁鳥と捕るは張切網とて  
 羅の目一ニ寸トすガ糸を以て  
 作り堅四尺よ二間をり多  
 々雁鳥觸れハ縮寄やうに  
 張てその下提灯羅とを三尺を  
 々の丸網の中へ懸りて入かき  
 かさつらひ蛇のくまらと木よこ  
 造り竹のくみ入糸とをのく  
 つけて夜中仕うけおれ早天  
 二雁鳥木まぐ出るとき此の糸  
 と引鴨の方と目かけて動かせん  
 れて懸立とてその網をよとらん  
 じて羅をかきとらあり

甲斐國雁鳥捕之図



大日本物産圖會

雁鳥ハ甲斐日向丹後伊豫  
 等處を捕るものハ皆小雁鳥



大日本物産圖會

鷹鳥ハ甲斐日向丹後伊豫  
等處ニ捕ルものハ皆小鷹鳥  
とて奥州あを捕るものハ  
大たろるり白鷹鳥ハ朝鮮よ  
り來りて鷹丁と云ふもの  
なり鷹鳥ハ養ふに朝鮮  
とゆふこと本朝より十  
七代仁徳天皇の御宇河  
理古といふ人初て鷹鳥と獻  
せし時小百濟の皇子酒君  
とて鷹を馴さしめ遊  
獵ニ諸鳥ととじむを別ち  
我朝ニ鷹鳥と養ふの始也

鷹鳥之圖



鷹鳥ヲ馴ス圖

鷹鳥ノ馴ス圖



大日本物産圖會

ゴハヤ  
牛蒡ハ諸國培養せ  
ざる処なしと云ふ豫州  
各郡之培養する物  
と第一等といふもの大  
なる物四尺余あり  
味きこときわ  
三四寸におゆるわら  
のかりてその味し  
尤佳あり

伊豫國牛蒡堀之圖



伊豫國牛蒡堀之圖

大日本物産圖會



大日本物産圖會

豫州の峯々を九月より  
十月の頃に至りて朝夕鳥  
の群々來り峯々を越る  
と窺ひ獵師州産う  
たを堀り扇形の羅を  
りて穴の中へ隠し  
飛來る鳥を捕ふその  
手ぎひ実る感するに  
あへり



豫州の鳥捕圖



大日本物産圖會

土佐國經釣之圖

經、外海の諸國を採りて、  
ども、主として出すと名産とい  
魚を捕らぬ網を稀うして  
釣多し其時と撰むるごと  
ども三四月ごろと初經とい  
て春節の上品といひ生は  
飼として一艘は十二人の  
尺のつら竿の糸の長さ大  
計るる先づ生は世を夥しく  
水上に放ちていとうとを  
集るる其中へ針の世の屋と  
はして投入し、忽ち食つて  
猶豫のひぬ多く引上るる



大日本物産圖會

お魚多く集る所は懐牛の  
鯨鯨の牙等もよく出さる







大日本物産圖會

鮫魚多く集る河の傍牛の  
 筋線の牙等こそ明き  
 く釣る是と云ふと云ふ  
 又さ魚と者の所上り  
 りうで上ヶ先ッ頭と削り  
 腸とぬき骨と除き二枚と  
 あらうらうと又ニツは切て  
 四斤とあり統より多くて  
 幾をもささみ大谷の沸  
 湯とむして美の子あま  
 べ三十日やどろしてあま  
 るにわづらゆつめ法かへ  
 採出する

同經節と製ス圖

五  
 大  
 日本  
 物産  
 圖會  
 卷之  
 六  
 行



大日本物産圖會

肥前國伊万里焼の本朝之元上  
品と就中大河内三河内より出  
る物上等之此焼物ハ用土之  
多しと云へ泉山之り出で其性甚  
堅一奉のふと打らざる金并  
ふてそとつみ末粉とて他の土  
二三種合せて溜池ハ湯一と  
和一とを飯糰にこじ外の溜  
池ハ湯一とを湯で煮るものと  
湯と煮るとの釜ハなりて乾  
再び清水と調和し粘りて大  
小とよきものを埴人の下み也

肥前伊万里陶器造図一



シラエラ溜池ハ入ル

溜池ハ湯一と

土の丸

山器ヲ拵ル

大日本物産圖會

凡器之造り形押田谷の西  
後ありと久も田谷と名



又ヤキ金

クヌリヨ拵タルコエ

大日本物産圖會

凡造りし形押田谷の両  
 後ありと久も田谷と方の  
 用品とす先土中の足移乃  
 先と堀申の車と任とて車の中  
 土と置車ハ足小と廻一両手と  
 以て上の土と押捧け指めて心  
 修り器と作り陰干はして素焼  
 の釜入新を用ひて度量と  
 さろ一火とけしそめちま  
 一取ひて水をくまふ  
 書画とくそ本釜へて焼  
 あり

肥前伊万里陶器造図ニ



西ノカク図

クカミテニノス

スヤキ字図

クスリヨ樹タルエ図

画工大鋸町四番地 安藤徳兵衛



大日本物産圖會

煙草ハ元南アメリカの産物にして我國慶長十年ホルトガル人持来りて長崎へ植附たるを初として培養せざる国はと雖も就中大隅國部上野の館薩の秋父丹波山本上津武藏の秋父丹波山本上総の小糸等より出す物を最上等と云ふ此草性辛くして収採の後虫の付患はと云ふも成長乃時ハ却て虫の付患はと云ふも毎朝まよと云ふれ其葉と細のくみすめり

大隅國煙草培養之圖



大日本物産圖會

八九月頃種と下し三月に至りて移植六月頃葉薄黄と多る小苗は根の近き葉を三枚



大日本物産圖會

八九月頃種と下し三月に至りて移植六月頃葉薄黄と多小随ひて根の近き葉と三枚摘とるこれと元葉との中品なり後中真の二葉とつむこれと中葉とのひて上品と残り枝莖と絞てとりとマ陰乾するの下品なりつとりの葉を揃へて薦を被ひ黄色は変ると度止て三葉づつ細かく分ち又日よせ夜つるよこせ後巻を細切る

茶葉製造之圖



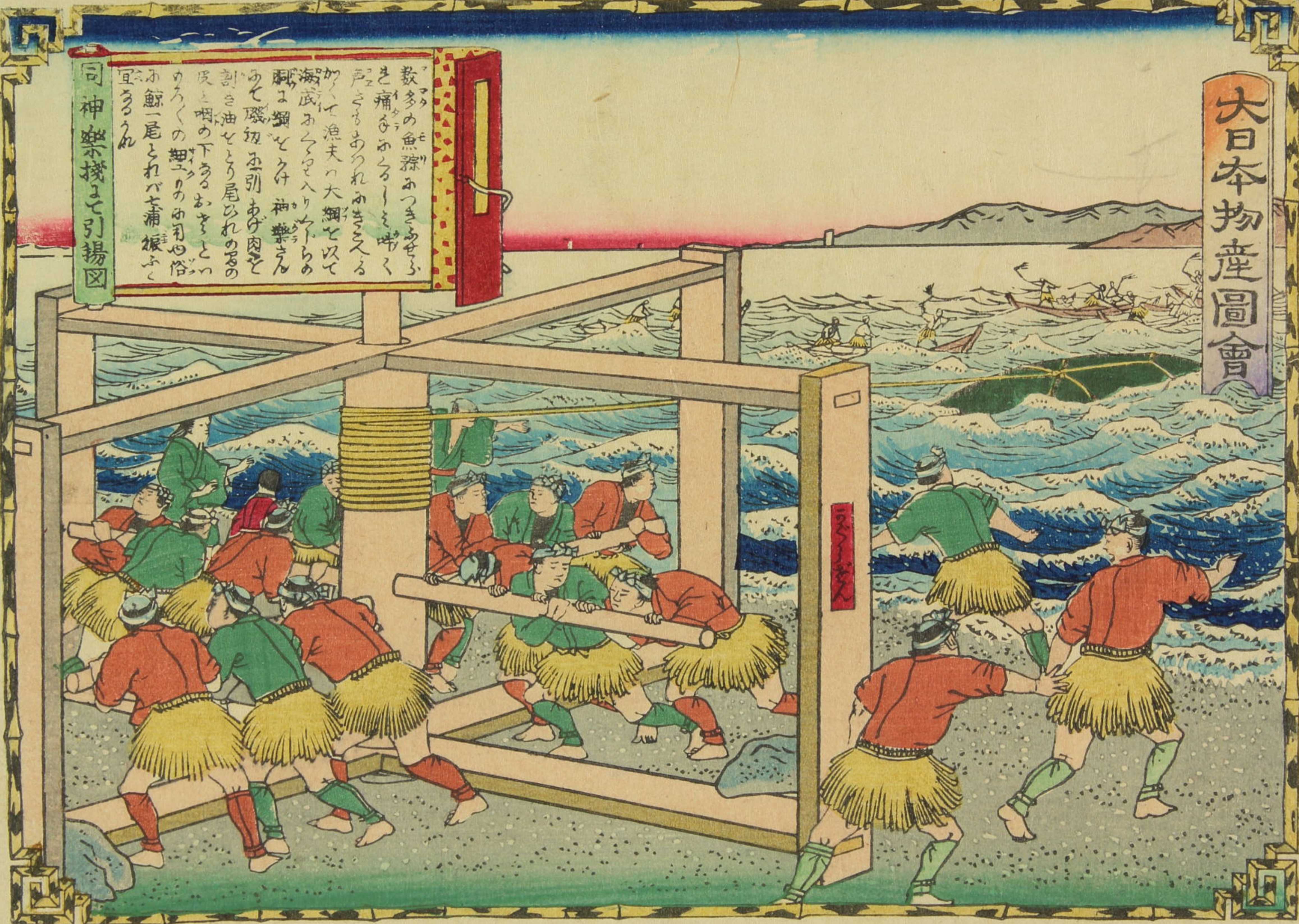
萬屋

茶葉製造之圖

大日本物産圖會

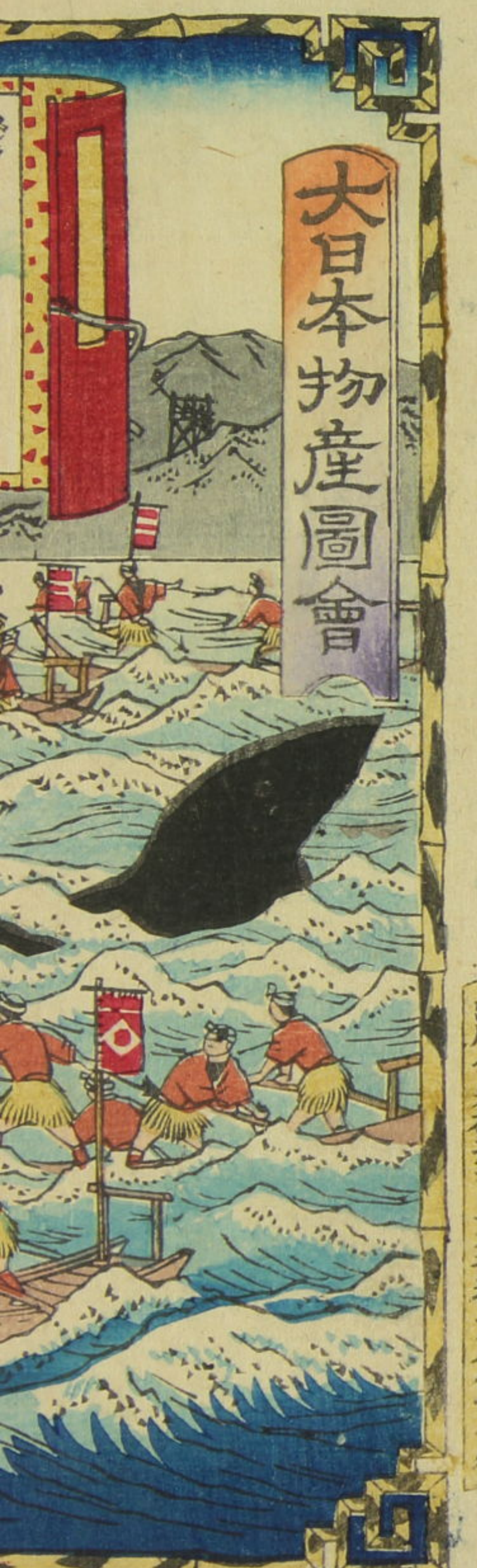
数多の魚獲ふつきまき  
き痛ふふろーと時く  
戸もあつれふきまき  
かくて漁夫の大綱を以て  
海底をくぐり入りやうの  
賦は獨りけん神樂さん  
めて磯切ふ引あげ肉を  
割き油とり尾はれのるの  
皮と咽の下るおきとい  
りくくの細りのゆめの俗  
小鯨一尾とれば七浦振ふ  
宜るるん

司神樂棧よて引揚



神樂棧

大日本物産圖會



大日本物産圖會



鯨の多し 西海道は漁す先  
 山上の櫓と立鯨の瀬と吹  
 と又魔とありて船へ知ら  
 ずるは心して鯨舟十六艘  
 合魚鯨と數十本と多我  
 さらぬとさき出し一ありり  
 と突くる舟のわがりの外  
 み吹るがしと立ると例と  
 鯨を痛て動揺すること  
 じやの清く如く三五里の  
 間狂ひ廻りて又原々の所  
 へ来て死するとりり

壹岐國鯨漁之圖

大日本物産圖會

司神樂棧と引揚圖

ありて磯辺 五別あり肉を  
 割き油をとり尾のれもの  
 皮と骨の下るおきとつ  
 のろくの細工りのゆ用の俗  
 小鯨一尾とれれば浦振ふ  
 宜らるん



画王大鑑町四番地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

ナマコイリコヤッコ  
生海産物海産物  
荒蕪粉の製法あり  
皇國志海より出ずと  
最も支那の喜物なり  
あて漁するゆゑの舟  
あまをつけてちよと自  
然と入る海産物の石  
つゆととる海熱の産  
の汁又ハ蘇のあぶと水  
面小流せ水産物なり  
て是とすらあり

對馬國海白取之圖



大日本物産圖會

熱海産物  
三條の旗とぬき空鍋ハ入  
てつゆとす火よて煮ること





大日本物産圖會

熱海産と申すは、ゆへに後中  
三條の湯と申すは、空鍋に入  
てつゆき火よて煮るると  
一ヨ一夜ゆきしとりのゆへに  
冷ると候ひ糸よてつゆき  
て乾ち又竹よきとち  
るると申すは、産といふは、産場  
ハぬきたつことを、湯水よて  
扱つんあつひ、湯は、糸よ  
扱つるより、其色にひより  
ありて、梳粉のこしたかめと  
上品と申すは、あつハトひん  
る。

對馬國海産製糸之図



再上人程丁也  
七女家志天二



海嶺に其毛を以て指どりて

大日本物産圖會



北海道函館氷輸出之圖

氷の嚴寒の節北海道五稜岳の掘氷の水たるを鋸を以て凡そ目方二十ノ目むらりに引つらう二個合して雪車衆せ函館湊を運持ち大鋸屑を覆ひ箱おふ密封して横濱東京その他諸國へ輸出して氷藏り納め暑中よりくく販賣ス

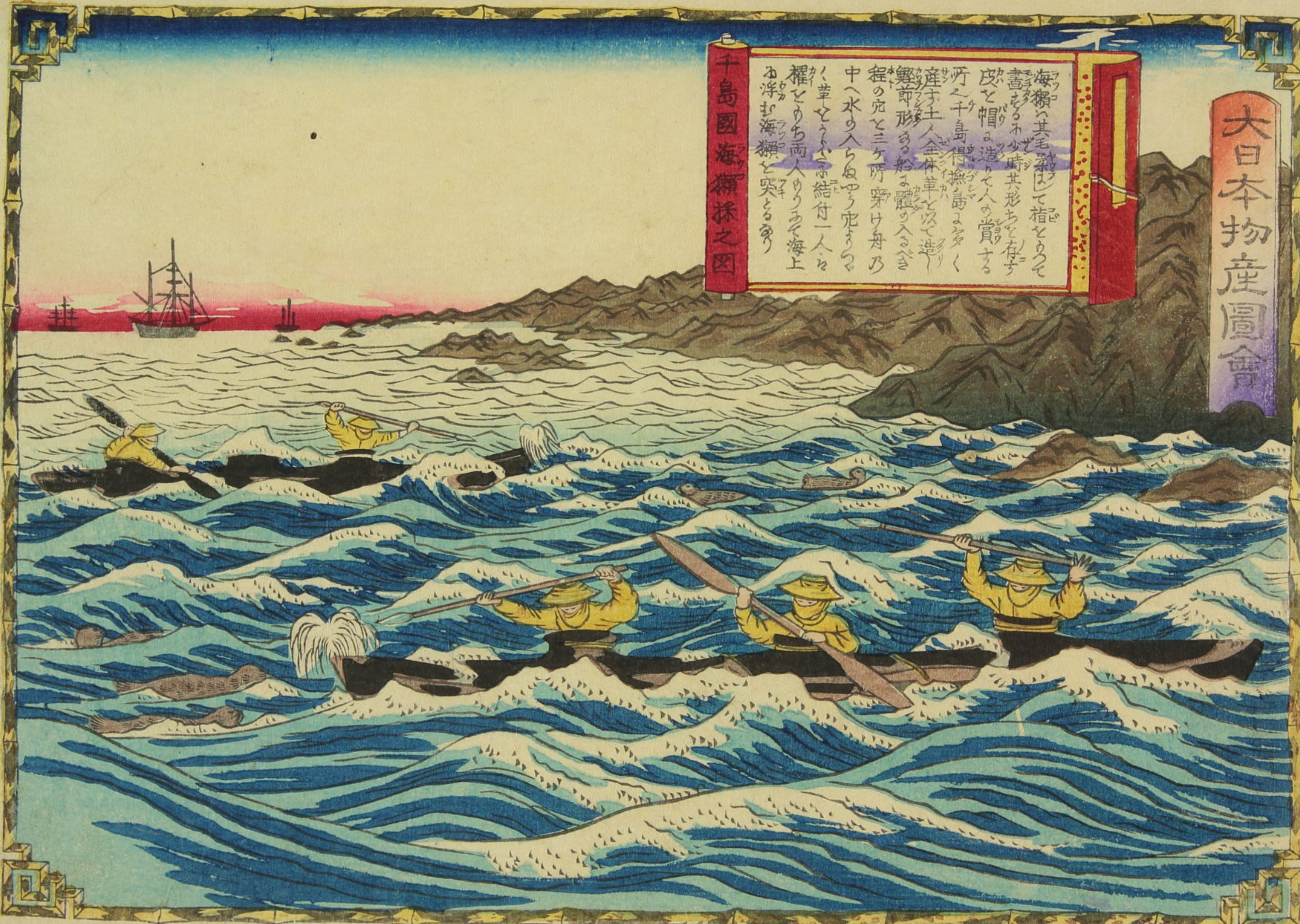
大日本物産圖會



大日本物産圖會

海嶺其毛糸にして指とりて  
 書きたる少時其形ちと存す  
 皮と帽と造りて人の賞する  
 所之千島得撫島多  
 産于土人全体草を以て造り  
 舞節形多る船を籠り入るる  
 程の元と三ヶ所穿け舟乃  
 中へ水の入りぬやう宛より  
 人草とよみ結付一人は  
 權とりち兩人りりて海上  
 ぶ浮む海嶺と突らるる

千島國海嶺採之図



（五）大鋸町海嶺地 安藤忠兵衛



